

セッション D 神経内科疾患（獨協医科大学 神経内科 宮本 雅之）

小生の担当したセッションは、「神経内科疾患」で、6つの演題の発表がありました。内容は、睡眠関連運動障害の中から3題と睡眠時随伴症の中から3題でありました。睡眠関連運動障害の中からの3題は、睡眠中のこむらがえりの症例報告(D-2)、昼間から症状のみられるレストレスレッグス症候群(RLS)の治療難渋例の問題提起とその対応について(D-3)、周期性四肢運動(PLMS)における下肢の運動持続時間に関する中枢病変患者と脊髄病変患者についての神経生理学的観点からの相違についての報告(D-6)がありました。また睡眠時随伴症の中からの3題は、頭内爆発音症候群の睡眠ポリグラフ検査所見についての稀少な症例報告(D-1)、レム睡眠行動異常症(RBD)の1症例の治療による睡眠脳波の変化(D-5)、そして海外で開発されたRBDのスクリーニング用の自己記入式問診票であるRBDSQの日本語版の有用性について検証した報告(D-4)がありました。いずれも大変価値の高い報告がありました。ポスターの前には発表関係者のほか、多数の聴講者が集まり、活発な意見交換と討論が行われ、本テーマの关心の高さを伺わせました。発表と討論の時間がそれぞれ10分、6分と十分に設けられておりましたが、本セッションは約1時間で終了しました。

演題番号	演題名	演者	演者所属
D-1	頭内爆発音症候群の1例	大倉 瞳美	大阪回生病院 睡眠医療センター
D-2	睡眠中のこむら返りを主訴とした1例	松下 真紀子	大阪回生病院 睡眠医療センター
D-3	症状が昼間から出現する restless legs syndrome の治療過程	立花 直子	関西電力病院 神経内科・睡眠関連疾患センター
D-4	レム睡眠行動異常症におけるスクリーニング問診票 REM sleep behavior disorders screening questionnaire of Japanese version (RBDSQ-J) の日本語版の有用性	宮本 智之	獨協医科大学 神経内科
D-5	レム睡眠行動障害女性例におけるクロナゼパム投与後の脳波所見	香坂 雅子	朋友会石金病院
D-6	周期性四肢運動における下肢運動持続時間に関する中枢病変患者と脊髄病変患者の比較	兒玉 光生	国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 神経内科

近年、症例報告より研究報告が重視される傾向にあるためか、学会での症例報告をする場が少なくなっている印象をうけます。臨床研究においては1例1例の症例の注意深い観察と記載が重要であり、そこから偶然の新しい発見(serendipity)がなされることも稀ではありません。1例の報告から臨床研究そして基礎研究へと発展ていき、若手の先生方には、生涯の研究テーマを見出すひとつのきっかけにもなります。本会は、日常診療で困った症例、一筋縄でいかなかった症例を提示する機会として重要かつ価値の高いものであったと思います。今後、発表内容の完成度に関わらず、発表者が聴講者と意見交換や討論をしたい問題点や疑問点を明確に提起して発表に臨めば、さらに有意義な発表となるのではないかと思います。今後も若手の先生方を中心に積極的に発表して頂ければと思います。

本学会のテーマが'Integrated sleep medicine'であるように、専門を異にする専門家同士の交流や専門外の立場からの意見交換、別な角度からの観察を通して新しい解決方法や発見が得られる可能性があります。発表の成果は、自己研磨としてばかりでなく、日常診療の現場においても還元でき、また他者から教授をうけるのみでなく、自己の経験を他者に教授する会員の相互交流の場としても活用していくものだと思います。限られた発表時間内ですべてを討論し尽くすことは困難ですが、単なる症例報告や研究成果の発表で終わるのではなく、活発な意見交換や討論ができる場として今後も永続していくことを望みます。